

単元名：筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

教材「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」（光村6年下）

主張文Ⅳ

平和への主張

K・Y

皆さんは、自分に爆弾が落ちてくるという恐怖を想像できますか。わたしは、考えるだけで胸が痛くなり、悲しくなります。でも、今、わたしたちがこうしている間にも、戦争によるけがで苦しみ、栄養失調で死んでいく子どもたちが大勢いるのです。さらには、戦争に参加させられている子どももまでするということです。

世界には、制服の代わりにバンダナを頭に巻きつけ、教科書の代わりに銃を持った少年兵が存在します。わたしと同じ年の少年が銃を持っている姿を写真で見たとき、わたしは驚きのあまり、大きな声をあげてしまいました。しかも、その少年は敵の捕虜を二人も殺したのだということです。本当にわたしたちと同じ子どもです。自分とはほど遠い世界の出来事です。人を傷つけることさえできません。わたしは自分が顔をしかめているのが分かりました。ひどいという気持ちやなんでそんなことをという気持ちと、いろんな気持ちがいりまざり、気持ちが悪くなりました。でも、やっぱり少年たちもわたしと同じなのです。お酒を飲まされ、麻薬をうたれ、少年兵たちは自分で判断する力を失わされていたのです。わたしは、すごく悲しくなりました。この少年たちは、家が貧しかったり、難民であったりするそうです。兵士になることでしか生きられないのです。こんなことをさせてしまう大人、そして戦争に対して、わたしはますます、いかりの気持ちでいっぱいになりました。

でも、こんな子どもを生み出さないための活動もあります。難民や親等を失った子どもを助ける団体です。けがをした人の治療や心に傷を負った人の心理ケア、食事、住まいの準備等、たくさんの活動をしています。生活がちゃんとしていれば、少年兵になる必要はありません。これらの団体の中には、ボランティアも多いそうです。わたしは、これだ、と思いました。本当に大切なのは、この人たちのように、人のことを本当に思ってあげられる気持ちなのです。いつ自分が殺されるかもしれないという所に、自分から進んで行けるというのは、すごいことです。わたしは、この人たちみたいな気持ちをいつも持てるようになりたいと思いました。

戦争が残すものは、憎しみ、悲しみだけです。わたしは、子どもに銃まで持たせてつらく悲しい思いをさせるような戦争を絶対に許すことはできません。でも、今苦しんでいる子どもたちを少しでも救うために、「国境なき医師団」の一日五十円キャンペーンにほんの少しでも協力したいと思います。五十円で人の命が救えるのです。それに、みんなにも呼びかけることで、少しでも多くの人に平和の輪を広げることになります。そして、一日でも早く、戦争がなくなり、皆が他の人のことも考えられる平和な世界が来てほしいと思います。